

# 安楽寺だより 第11号

〒105-0014 東京都港区芝1丁目12-18 電話：03-3451-1509 FAX：03-3798-2238

発行者：藤澤 克己（安楽寺住職） ホームページ：<http://homepage2.nifty.com/anrakuji>

## 夏に向かいます お大事なお過ごしを

これから暑い季節が巡ってまいります。  
みなさま、いかがお過ごしでしょうか。

ここ数年、大自然の力は大変に厳しいと  
思い知らされる場面が多くなってきたよう  
に感じます。

つい先日、梅雨前線が停滞し「経験した  
ことがないような大雨になっている」との  
ニュースを聞きました。被災された方々に  
心からお見舞いを申し上げます。

安楽寺境内で咲いた鉢植えの桜が美味しそうな  
きれいな実をつけてくれました。



梅雨の時期には紫陽花（アジサイ）の花が似合  
います。可憐な花を見せてくれました。

電力需要が高まる夏に向け節電すること  
が望まれています。電気の無駄使いは控え  
るべきですが、極端に節約しすぎて支障を  
きたすことがないように気を付けましょう。

暑い夏には体力を消耗し体調を崩す方が  
少なくありません。決して無理せず、適度  
にクーラーを使い、水分補給に気を付けて、  
くれぐれもお大事にお過ごしください。

### 《あれこれ抄》

▼「安楽寺だより」をお届け  
します▼今年もスズムシの  
卵が一斉に孵化しました▽  
小さすぎるため写真で紹介  
できないのが残念ですが、  
8月初旬には涼しげな音色  
を響かせてくれると期待し  
ています▽ご希望の方には  
お分けしますので容器をお  
持ちください。▼お寺では  
「ガス冷房」を使っていま  
す▽通常の「電気冷房」に  
比べると消費電力が少なく  
済むそうで、ご法事るとき  
に気兼ねなく使っていただ  
けるので喜ばれています。  
▼4月から始めた法話会に  
参加する方が徐々に増えて  
きました▽法話を聴いてい  
ただいた後に、語り合える  
時間も設けています▽これ  
からもみなさんの期待に応  
えられるよう継続していき  
ますので、ご都合の良い時  
にどうぞご参加ください。

## 永代経法要をお勤めしました



5月10日(木)に永代経法要をお勤めしました。安楽寺で大切にしている行事の1つで、多くのご門徒のみなさんにお参りいただきました。ありがとうございます。

「永代にお経が読まれる」という法要の趣旨に、浄土真宗のみ教えが一人でも多くの人に受け継がれていきますようにという願いが込められています。

一緒にお唱えしたお経は『仏説阿弥陀経』。「南無阿弥陀仏」を唱えることでお浄土に往生できるというみ教えが説かれています。

芝組の法中仲間に内陣出仕をしてもらい、住職はご本尊前の台座に登礼して、厳かにお勤めすることができました。

お勤めに続いてご法話を聴聞しました。昨年もお世話になった赤川浄友師(本願寺派布教使)のお話には、大きく頷かされる気付きがたくさんありました。

広く世界の仏教徒が唱える「三帰依文」(さんきえもん)を歌ったり、腹の底から声を出して笑うことの大切さを学びながらの尊い時間を過ごさせていただきました。



「お寺はシェルターです」と、社会生活の中で困ったときに逃げ込むことのできる場であってほしいと示してくださいました。

住職としても、安楽寺はそのようなお寺でありたいと願っていますので、その心をしっかりと受けとめさせていただきました。

### 【お経のお言葉】

※みなさんに知っていただきたいお言葉を紹介します。

く え いっしょ  
**俱会一処**

俱(とも)に一つの  
 処(ところ)で会う

『仏説阿弥陀経』のにあるお言葉です。お経には、阿弥陀さまのお浄土に生まれたいと願いなさいと書かれてあります。その理由として、お浄土で仏さまや菩薩たちと**俱(とも)に一つの処(ところ)で会うことができる**からと説かれています。

「俱会一処」の教えは、愛する人を亡くした悲しみにいる私たちを支えてくれる大切な教えだと思います。**お浄土で俱に会える**のですから、「一生懸命生きていきます。かならずお浄土に参り、いずれまた会うその日まで」と思うことができるのです。

## 【 "お盆" の由来 】

知っていましたか？

お盆とは、正式には「盂蘭盆（うらぼん）」というそうです。古代インドの言語であるサンスクリットに「逆さまに吊るされたような苦しみ」という意味の「ウラバナ」という言葉があり、これが音写されたものだそうです。

お釈迦さまの弟子の目連尊者が、苦しみの世界にいる亡き母を救おうとお釈迦さまの教えを請うた逸話が「盂蘭盆経」というお経に書かれていて、それがお盆という行事の始まりとされています。

亡き方に思いを馳せる機縁をいただき、仏さまのみ教えを聴かせていただくことが、お盆の本来の意義と言えるでしょう。

## 原子力発電についての住職の思い

原子力発電所の事故によって、利便性や効率性、経済性を追求する生き方に大きな疑問を持つようになりました。

納得できないまま、停止していた原子力発電所が再稼働することに大きな不安を感じます。もし本当に十分に安全なら、今後計画する原子力発電所は電力消費の大きい都市圏に作った方が送電コストや無駄が省けるだろうに、危険だと言うのであれば、それは大きな矛盾ではないでしょうか。

地域経済を立て直すための原発誘致があると聞きます。しかしそれが目的であれば、

それぞれ別の課題を混ぜこぜにしていると、言わざるを得ません。

処理できない放射性物質をコンクリートで固めてしまうという話も耳にしますが、千年後の子孫に破砕してはいけないと確実に伝えられるとは思えず、無責任だと思えます。

いま私たちが原子力に頼らない生き方を探さなければ、未来に対して大きな禍根を残すと思います。昨年原発事故から学ぶべきことは、肥大した人間の欲や科学技術への過信を改めることではないでしょうか。

## 【書籍紹介】 (※ 7月27日発売開始)

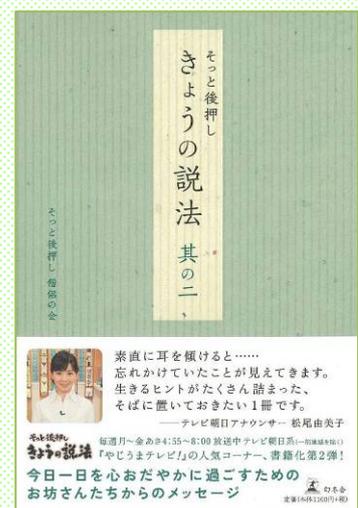
### 『そっと後押し きょうの説法 其の二』

(幻冬舎・そっと後押し僧侶の会著・税込 1155円)

昨年末に発行した書籍の続編です。仲間の僧侶とともに早朝のテレビ番組で届けてきた「きょうの説法」について、昨年10月～今年3月に放映された分が収められています。

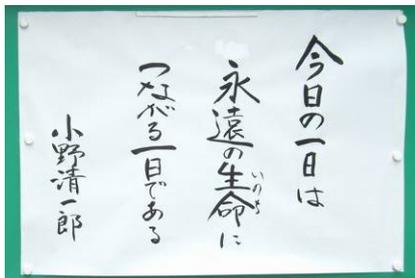
＜採録されている話の例＞

心のバックミラーを持つ／赦すことで心を穏やかに／  
思い通りにならない人生を生きる／渋みを甘みに転じる

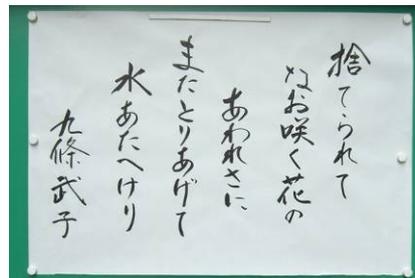


## 月々の言葉 ～安楽寺 伝道掲示板から～

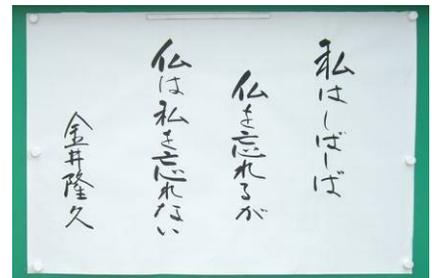
お寺の入り口に、その時々のお寺の言葉を掲げています。(1か月毎)



2012年5月



2012年6月



2012年7月

## 東北の被災地に行ってきました

引き続き岩手県の被災地（大槌町など）を訪問しています。東日本大震災から1年以上が経ち、日常の生活には落ち着きが見られますが、被災以前の生活からは程遠い生活を強いられています。少しでもお力になればと思って活動を続けています。

仮設住宅の集会場をお借りし「語り合い」をするようになりました。辛いお気持ちを和らげていただけるように努めています。

JR山田線大槌駅のホーム跡です。線路は流され雑草が茂っています。復興には時間がかかります。



大槌湾に浮かぶ「蓬莱島」はかつて人気のあった人形劇「ひょっこりひょうたん島」のモデルです。

「瓦礫を見てしまった夜には眠れない」「まだ当時のことを思い返したくない」といった声を直接お聴きすると、やるせない気持ちになります。

復興に向けて少しずつ前進していることは確かですが、なかなか実感しにくいのも事実です。被災者の方々の気持ちが折れてしまわないよう、これからも温かく見守り続けたいと思います。

今年の報恩講は 11月9日(金)に変更になります

毎年11月10日にお勤めする報恩講法要は、今年に限って1日前の11月9日(金)に行います。あらかじめお伝えしておきますので、よろしくご承知おきください。